

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100099		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街 焼津		
所在地	静岡県焼津市石津188		
自己評価作成日	平成25年8月17日	評価結果市町村受理日	平成25年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=2295100099-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が楽しく安心して、暮らしていける環境作りをしながら、利用者様の思いを大切にしたいサービスをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問介護、居宅介護支援事業所、通所介護、小規模多機能型居宅介護施設を併設しており、1ユニット9名ながらも日常的に同輩の往来が大勢あり、賑やかな声が溢れる事業所です。昨年度目標に掲げた「家族会の開催」、は着実に実行され、例えばクリスマスにはハンドベル、おやつにケーキを堪能しました。行事を契機に家族が足を運んでくださることも増え、取組みの手ごたえを職員も感じています。また、冬でも「寒さを感じようよ～」と誘い出すなど、季節に触れることに力を入れており、申し送りの時間を調整して外出支援の時間を作りだしていることから生活を豊かにすることへの積極的な姿勢が覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフみんなで、考えた理念をフロアに掲示して実践につなげている。	朝礼で唱和をしていますが、目にはいる場所に掲示しています。開設当初のメンバーで作成した理念ですが、新人職員には必ず説明し、チームで推進できるよう配慮しています。また、理念の見直しの機会も設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	市内で行われている行事・清掃活動等に参加して地域との交流をしている。	近所から花が届けられるなど、良好な関係が築けています。併設のデイサービスや小規模多機能事業所へのボランティア訪問が多くあり、便乗参加で楽しい時間を共有しています。また、傾聴ボランティアの受入も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の対応などを話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごと開催。自治会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表者等の参加があり、活動報告を行ったり、意見交換等を行っている。	隔月の月後半の水曜日と定めており、市役所や家族などへ案内を届けています。「定期でのボランティアも利用したらどうか」など市職員からの提案・紹介もあり、話し合いの内容が運営に役立っています。	家族に議事録を届けるか否かについて、あらためて職員間で検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方が運営推進会議に参加してくれているので、情報交換が出来ている。	市職員の運営推進会議参加を毎回得ています。欠席の折には議事録を届け、事業所の様子を把握してもらえるよう努めています。また、市でおこなっている介護相談員の訪問も受け入れ、利用者だけでなく職員も楽しみにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束について理解はしているが、グループホームは2階に立地しており、入り口付近に階段があるので、危険防止のため施錠している。	身体拘束はありませんが、危険が伴うケースなどで咄嗟の言葉にスピーチロック的なものが時折みられます。職員間で注意しあうのは難しい面もあるため、管理者が率先して都度注意し、和室など離れた場所を活用して雰囲気や気持ちを替える工夫も行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時の勉強会にて学ぶようにし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が学ぶ機会はないが、学んだ者がミーティング等で伝えるようにはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、理解を得られるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、ほとんど利用もなく、面会時等にその都度、意見を伺うようにしています。	「行事があれば家族も…」との考えをもって毎月行事を行っており、家族が事業所に足を運んでくださることも増えています。また、発語の少ない利用者に繰り返し話しかけることで結果につながり、家族に喜ばれた例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案はその都度聞き、反映するようにしている。月に1度ミーティングも開いている。	男性の施設長、女性の管理者とがバディを組んでいるため、職員は相談内容によって相談者を選ぶことができます。個人面談を行いたいとも考えていますが、現状は課題点も見当たらず風通しがよい状況にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の自己評価を行い、サービス内容によって点検している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後の新人研修は、本社で行っている。毎月の施設研修もなるべく参加し、職員に伝えるようにしている。法人外の研修も参加できるよう努力はしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度、市内でグループホームのケア会議があるので参加し、意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅等に伺い、話を聞く機会を作っている。 施設見学もお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をしてもらい、その後話し合う時間を、作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に会い、話合ったことを施設内にて、CMも含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒に行い、意欲を持った生活をして頂けるよう、コミュニケーションを取りながら信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた時や、お便りで様子を伝え情報を共有するようにしている。また、必要に応じて電話にて報告・意見を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には、面会や外出する機会を多く持って頂けるようお願いしている。知人等も気軽に来て頂けるようにご家族に伝えていきます。	焼津の花火大会を楽しみにしている人は「焼津おどり」を日頃から口ずさんでいて、当日は魚河岸シャツを自ら着て家族の迎えを待っているそうです。体調を崩すまでは、家族の支援を得て馴染みの美容院に通っていた利用者もいました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に入り、うまくコミュニケーションがとれるように支援している。レク等も皆で出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の近況を電話等で確認している。相談等があれば、伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望・意向の把握に努めている。本人から聞き取りが困難な場合は、ご家族とコミュニケーションを取りながら行っている。	意向が表出しにくい人もいて、また本人の発言ですべて確認しきれないこともあり、家族を交えて三者で考えたり、話し合い、感じ合うことを大切にしています。職員間でのケース検討でも活発な意見交換が成されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族から情報を得ているが、まだまだ把握しきれしていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを取りながら、身体観察等し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは難しいが、ご家族の意向・スタッフの意見を参考にし、作成している。	担当制を敷いており、ケアマネージャーが個々に聞き取りをすることでモニタリングをおこなっています。担当、管理者、看護師、ケアマネージャーとでカンファレンスを行い、ミーティングで全職員に共有させています。	介護計画をいつでも見れる場所に置く等、プラン実現への取組みがみられますが、職員に浸透しているかについて一度見直しを行うことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録の記入は、毎日実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに合わせて出来るだけの、柔軟なサービスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様と図書館に行き懐かしい歌などの、本を借りて来てみんなで楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診をご家族とともにやっている。医師への質問等があれば家族へ伝え、必要があれば同行もしている。(一部の方は往診にて対応)	往診医の利用が2名で、ほかは在宅の頃からのかかりつけ医にかかっている、家族が付き添っています。受診結果は口頭連絡を記録しており、本年からは経過記録に1本化させ事務処理の簡素化を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お互い情報交換し、相談しながら介護している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には詳しい情報を提供するように努めている。 退院に際しては、病院関係者・家族・スタッフと相談し、利用者にとって一番いい方法を考えながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とはよく話し合い、的確な対応ができるように努めている。	重篤となり口腔摂取が難しくなったため医療機関に転院したという例が1年程前にあります、未だ看取りの経験はありません。その折にも、状態確認と話し合いを何度も家族にもってもらい合意形成に至っています。契約時には「医療行為が必要な場合はサービスの継続ができない」ことを家族に伝えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていないが、急変・事故発生時に的確な対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中での防災訓練は行っているが、夜間での訓練は出来ていない。	警報機の誤作動があり、よい意味で貴重な体験となりました。これを好機と捉え、職員で話し合いと実施確認をあらためて行っています。また、地域の総合訓練には利用者と一緒に消防署に向き、津波の避難方法も確認しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートなことに関しては、耳元で話すようにしている。 経過記録への名前の表記はイニシャルで記入。	本部で年1回接遇研修があり、参加した職員が所内勉強会で知識共有と意識の継続につなげています。職員個々にやや差があるため、声のボリュームや言葉の遣い方について管理者は随時声をかけて注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、利用者様の思いを大切にしながら、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせられるように努力している。外出・散歩・体操・レクなどの際は本人の意向を聞き、無理のないように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、利用者様と服の色など自分の気に入った服を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立を記入し、同じような食事にならないようにしている。メニューの相談をしたり、テーブル・お盆拭きをしてもらったり、野菜の筋取り等出来ることは手伝って頂いてます。	桜えびの炊き込みご飯など、地産で彩りのあるメニューが揃っています。加齢とともに刻み食も増えていて、魚のボソボソ感を餡かけで飲み込みやすくする工夫や看護師が描いた口腔体操のイラストなどアイデアが随所にみられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く摂取できるように配慮している。食事量・水分量を一覧にて確認できるようにし、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレへの声かけ・誘導を行うようにしている。	パットが苦手なためリハパンの交換頻度があがり、家族からも費用負担についてあったため、早め早めの声掛け誘導に努めた結果、本人の状態改善となったケースもあります。また、本人の表情が向上しさらなる好結果につながりました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量の把握・排泄チェックを行いリハビリ体操や散歩にて身体を動かすようにしている。 毎朝ヨーグルト、1日おきにヤクルトの提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日おきに入浴できるように支援しているが、入浴日はスタッフがチェック表を見て決めている。希望があれば入浴出来るように心掛け、また強要することのないようにしている。	たっぷりの湯で張り溢れ出る水流を目で楽しみ、「一番風呂だよ」「朝風呂だよ」との声掛けで耳も喜び、といった五感入浴を楽しんでいます。柚子、橙のほか、花を浮かべることもあり、入浴を豊かにする試みが多岐にわたっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休む時間を設け、夜間もゆっくり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルを作成し、スタッフにも確認する様に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前・後の準備や片付け、また食材の買い出しや洗濯干し・たたみ等一人一人に合った役割が提供出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の庭に咲いている花を眺めながら施設の周りを散歩したり、外食や地域のイベントに参加できるようにしている。 家族にも外出をお願いしています。	気分転換が必要な利用者にはマンツーマンで近くのコンビニエンスストアなどへ雨の日でも外出支援をおこなっています。天気がよい日は車椅子を押しての散歩にも取り組み、また冬でも「寒さを感じようよ」と誘いだしています。申し送りの時間を調整して外出支援の時間を作りだしていることから積極的な姿勢が窺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際、出来るようであれば支払いを手伝ってもらったり、希望等があれば家族に了解を得て、購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は掛ける事が出来ます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテレビの位置を工夫し、居心地の良い空間作りに努めています。また、季節を感じられるような掲示物を飾ったり、朝は外の空気を取り入れたりしています。	階段が狭く急なこともあり、入口は普段は施錠していて、エレベーターを使用しています。共用空間は体操などのレクリエーションがゆったりとできる広さがあります。トイレが2つあり、廊下も余裕があり車椅子でも往来がスムーズです。	畳の空間は現在効果的な使い方が成されておらず課題とのことですので、あらためて検討を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は自由に好きな場所で過ごして頂けるように、特に場所を決めず、また一人でも休めるよう、色々な空間を活用し工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、今まで使っていた家具・寝具等を用意していただき、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	朝の9時と夕方の4時に利用者と掃除をおこなっていて、大変清潔です。カーテンと介護用ベッド、エアコンが取り付けられていますが、収納ツールの用意が特にないため、在宅の使い慣れたものへの持ち込みにつながっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り意思を尊重し、できる事は自分でやって頂けるよう支援しています。		